

令和3年9月27日

社会福祉士国家試験の在り方に関する検討会
構成員 各位

地域共生社会の実現に向けて求められる社会福祉士像

大牟田市企画総務部総合政策課
梅本 政隆

地域共生社会が、これまでの地域福祉の枠組みにおさまらない大きな射程を見据えているとすれば、その実現のためには、福祉関係者はもとより福祉関係者以外との連携、さらには協働・共創の関係を構築し、取り組む必要があります。

この考え方は、そもそも人の暮らしや〈幸せ〉は、制度や分野におけるいわゆる〈福祉〉のなかにはおさまるものではないという前提にたっています。

そのようななかで、社会福祉士がキーパーソンになるためには、以下の姿勢や行動が求められると考えます。

1. 人権意識をもち、常にクライアントの立場に立つことができる
2. 自らが住む/かかわる地域について、地域共生社会のビジョンをもとに「何とかしなければ」という使命感をもっている
 - ・ 「共生」とはどのような状態なのかというビジョンをもち、かつそのビジョンの実現のための使命感（強い気持ち）をもっていることが、多くの関係者と協働・共創していくための原動力になる。
3. 目の前の問題（生活に困窮している人や生きづらさを抱えた人等）は、社会のなかで起こっているということを、構造的に捉えることができる
 - ・ 目の前の問題が個人に起因するのではなく、社会の構造や他者との関係性のなかで立ち現れていることを理解し、目の前の問題に対処しつつ、構造的な問題にアプローチすることが、本質的な問題の解決につながる。
 - ・ そのためには、目の前の問題を俯瞰し、構造的に捉えることができる力が求められる。
4. 支援する/されるという関係の枠組みを超えて、目の前の問題が起こらないような社会にしていくよう働きかけることができる
 - ・ クライアントや地域を支援する対象とだけしか捉えることができないと、協働・共創する関係は構築できないため、あくまでも相手の主体性を重んじる姿

勢が求められる。主体性が見出せない場合は、主体性が喚起されるよう働きかけることが求められる。

- ・ さらに、その問題が二度と起こらないよう、必要があれば制度や社会の側の変革をうながすよう働きかけることが求められる。その際、問題を問題として捉える社会側の認識そのものを疑い、その認識も含めて変革していく姿勢が期待される。

5. 社会福祉士の専門職性は代替可能性にあること、つまりあらゆる分野にアプローチできることを理解し、実践することができる

- ・ ソーシャルワークは、専門性の範囲が広くかつ職務が限定されていないということは、アプローチの対象となる範囲が広いということであり、意識と行動次第ではあるが社会全般のさまざまなことにかかわることが可能であり、そのことを強味として捉えることが求められる。
- ・ 社会福祉士は、その可能性を理解したうえで実践することが求められる。

以上